

# 地域へ開かれた小児科を目指して

久間木 悟<sup>†</sup> 千葉 洋夫第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol.78 No. 1 (23-27) 2024

## 要旨

小児科は15歳未満の人口減少に加え、「発病してから治す医療」から「発病前に病気を予防する医療」へのパラダイムシフトがおきている。このような状況下で地域に選ばれる病院となるために必要なことは、地域の医師に病院を広く知ってもらい紹介しやすい環境を作ること、そして特色ある医療を提供することの2点を挙げるができる。その一助としてわれわれは2019年4月に「仙台医療センター小児科交流サイト」を開設した。このサイトにはこれまで地域連携に登録していた医師に加わってもらった。サイトではわれわれの日常をお知らせするとともに疾患の流行状況、入院患者についてのトピックス、新任医師を含めた病棟スタッフの異動や自己紹介、専門分野の紹介などを配信している。開業の医師から思わぬ反応もあり、地域へ開かれた小児科のイメージ作りに役立っていると思われる。また、より専門性の高い医療を提供して患者を紹介してもらえるようにしている。アレルギー疾患や内分泌疾患などでは負荷試験を行い予定入院患者数の確保に努めている。新生児医療では宮城県周産期医療情報システムに登録を行い、母体搬送を積極的に受け入れている。出生後NICUに入院した早産児に関しては、NICUサマリーを同封した紹介状を家族に渡し、乳児健診と予防接種を行うクリニックへ受診してもらおうようにしている。そのほかに当院の地域連携スタッフとともにクリニック訪問を行い、顔の見える関係を構築することに努めている。これからもさまざまな工夫を行いながら地域へ開かれた小児科を目指していきたい。

キーワード 地域連携, 交流サイト, 専門性, 新生児医療

## はじめに

小児科は今、急激な小児の人口減少に加えて予防医学の発達による疾患構造の変化で過渡期を迎えている。令和4年の出生数はついに80万人を切っ

まった。仙台市でも2012年に9,500近くあった出生数が2021年には7,300まで減少している。また、予防接種は定期接種の数が2011年の5種類から2022年には11種類と増えてきており、肺炎球菌やHib（ヘモフィルスインフルエンザ菌b型）による髄膜炎な

国立病院機構仙台医療センター 小児科 †医師  
著者連絡先：久間木 悟 国立病院機構仙台医療センター 小児科  
〒983-8520 宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目11-12  
e-mail: kumaki.satoru.zh@mail.hosp.go.jp  
(2023年3月9日受付 2023年10月13日受理)  
Aiming for a Community-based Pediatric Practice  
Satoru Kumaki and Hiroo Chiba  
NHO Sendai Medical Center  
(Received Mar. 9, 2023, Accepted Oct. 13, 2023)  
Key Words: community partnership, social media platform, expertise, neonatal care